

オリンピックで世界を知ろう

ユニット名

オリンピック教育・研究拠点

ユニット代表者 体育系 教授 真田 久

◆ユニット構成員 総数 24名 (教員 16名/ポストク0名/他機関 8名)



キーワード オリンピック、オリンピズム、オリンピック教育、オリンピック・ムーブメント、嘉納治五郎

<http://core.taiiku.tsukuba.ac.jp>

熱い思いー心躍る胸、4年に一度(冬季大会を入れると2年に一度)この季節はやってくる。ハイビジョンテレビから伝わる臨場感と何とも言えない緊張感、映像越しに見る国民代表の活躍に一喜一憂する。

普段からスポーツをする人もしない人も、昨日見た競技の話に花が咲く、それがオリンピックです。そのオリンピック・ムーブメントを推進するため、附属学校と連携して、オリンピック教育のプログラム作成と日本、アジア、世界の先導的なオリンピック教育を構築するのが、リサーチユニット「オリンピック教育・研究拠点」です(図1)。

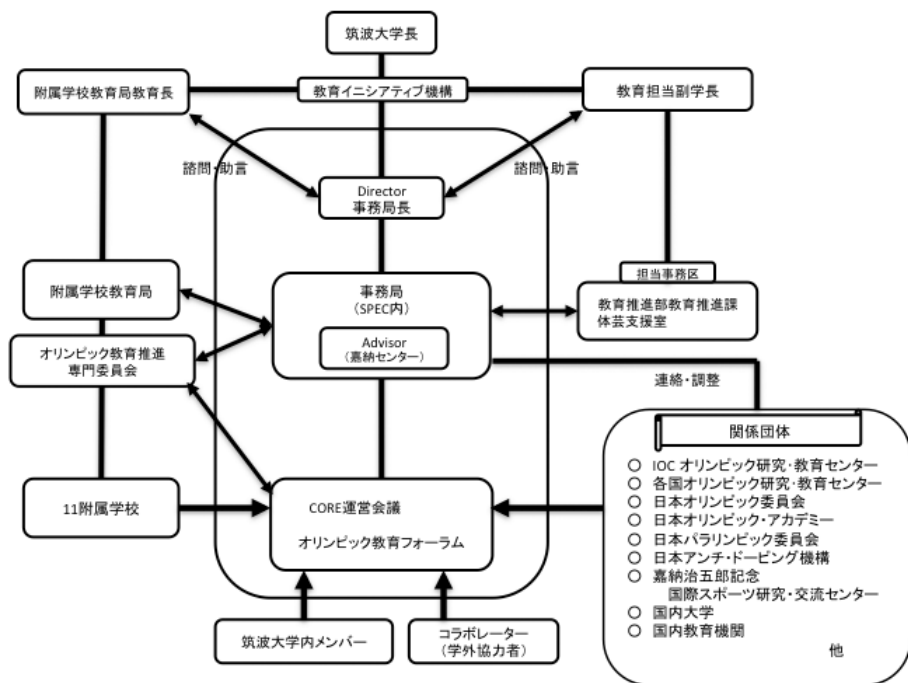


図1：筑波大学オリンピック教育プラットフォーム (CORE: Centre for Olympic Research & Education) 組織図

公認教育研究拠点として、オリンピック・ムーブメントを推進し、知・徳・体の融合した人材を育成しています(図2)。

オリンピック教育を広める

オリンピックは競技種目に目が行きがちですが、開催地ではオリンピックの文化プログラムを行うことが義務付けられています。オリンピック教育はオリンピックを通して世界の文化や情勢を学ぶことができます。現在、本ユニットでは海外のオリンピック教育の実施内容を具体的に調査し、小中学校、高校、支援学校に適したオリンピック教育のプログラムを作成しています(写真1、2)。また、世界で唯一、特別支援学校にて、オリンピック教育を行っており、スポーツを通して努力することをたたえる教育をしています。視覚障害の子がリレーをしていて、中心点からロープを出し一周し、

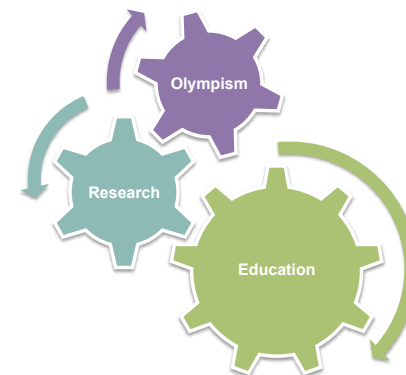


図2：オリンピック研究教育拠点



写真1：古代のスタート法1 (附属中)



写真2：錘を持って跳ぶ古代の幅跳び (附属高)

先生が抱き抱えて、次の子にバトンを渡す。その時の子供たちの表情はとても生き生きしています。

国際オリンピック委員会 (IOC) 公認の教育研究拠点

日本初の IOC 委員である嘉納治五郎を前身校の校長に持つ筑波大学では、多くの在校生や卒業生がオリンピック、パラリンピアンとして国際的に活躍してきました。ナショナルコーチ、スポーツ団体職員、体育教師として社会で活躍する卒業生も多数存在します。日本の体育・スポーツを支えてきた筑波大学で立ち上がった「オリンピック教育・研究拠点」は、日本唯一の IOC

社会への貢献・実績

- 第1回国際オリンピック研究コロキウムに出席
- ドイツのオリンピック研究センターと連携協定を締結
- 「オリンピック教育」(英名: Journal of Olympic Education) の発行